



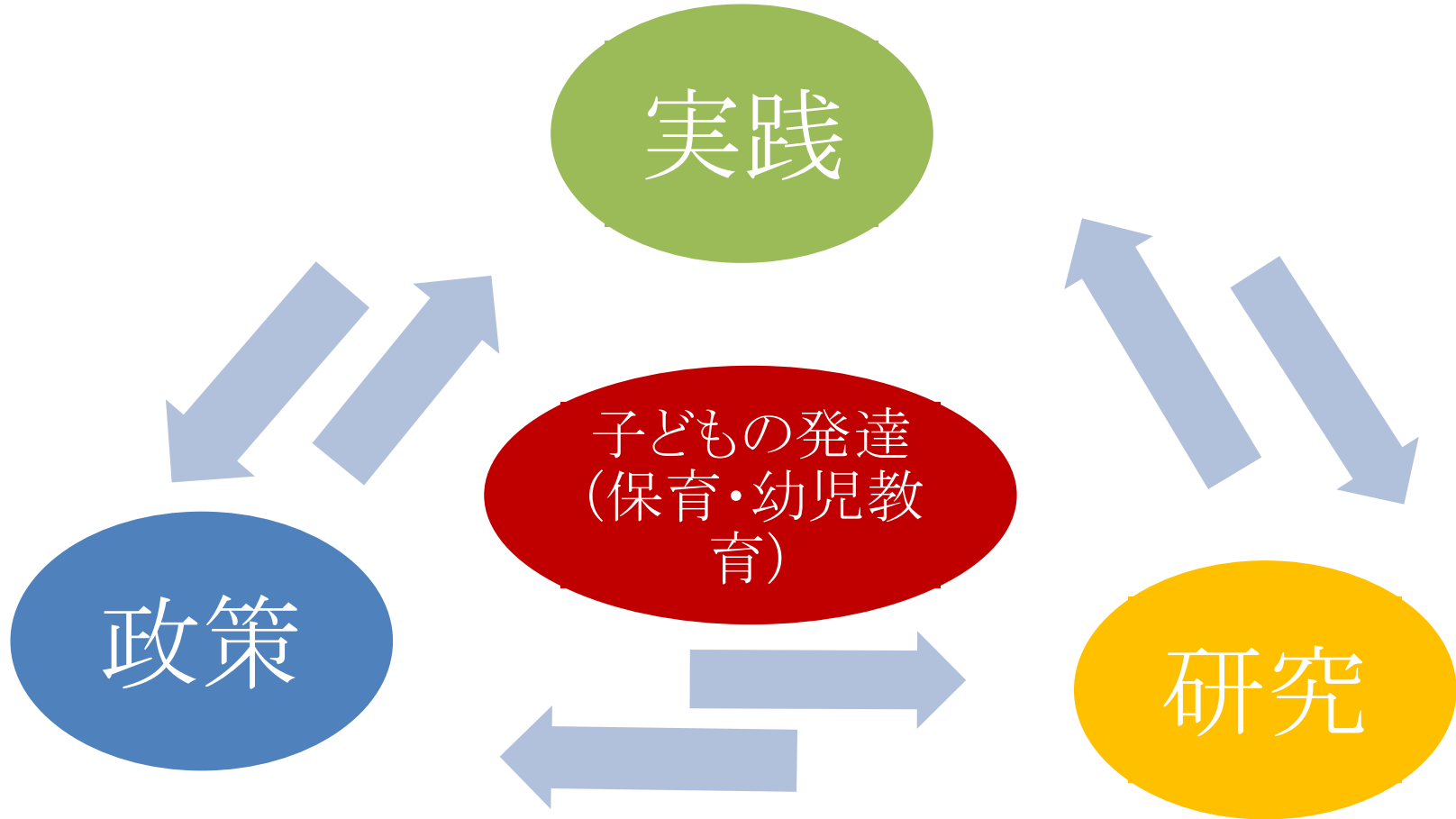
OECD報告書 STARTING STRONG IV: 幼児教育・保育(ECEC)の質のモニタリング (日本語訳出版予定)

OECD教育スキル局
シニア政策アナリスト 田熊美保



はじめに:

諸外国との比較考察による、日本における
発達保育実践政策学センターの意義



*「質のモニタリング」は、ECEC政策学にも、実践にも関連性は高い



Today's focus

- 質のモニタリング調査に関する政策背景
- モニタリングに関する各国進捗状況と課題
- モニタリング：分野別考察
 - － サービスの質
 - － スタッフの質
 - － 子どもの発達のモニタリング

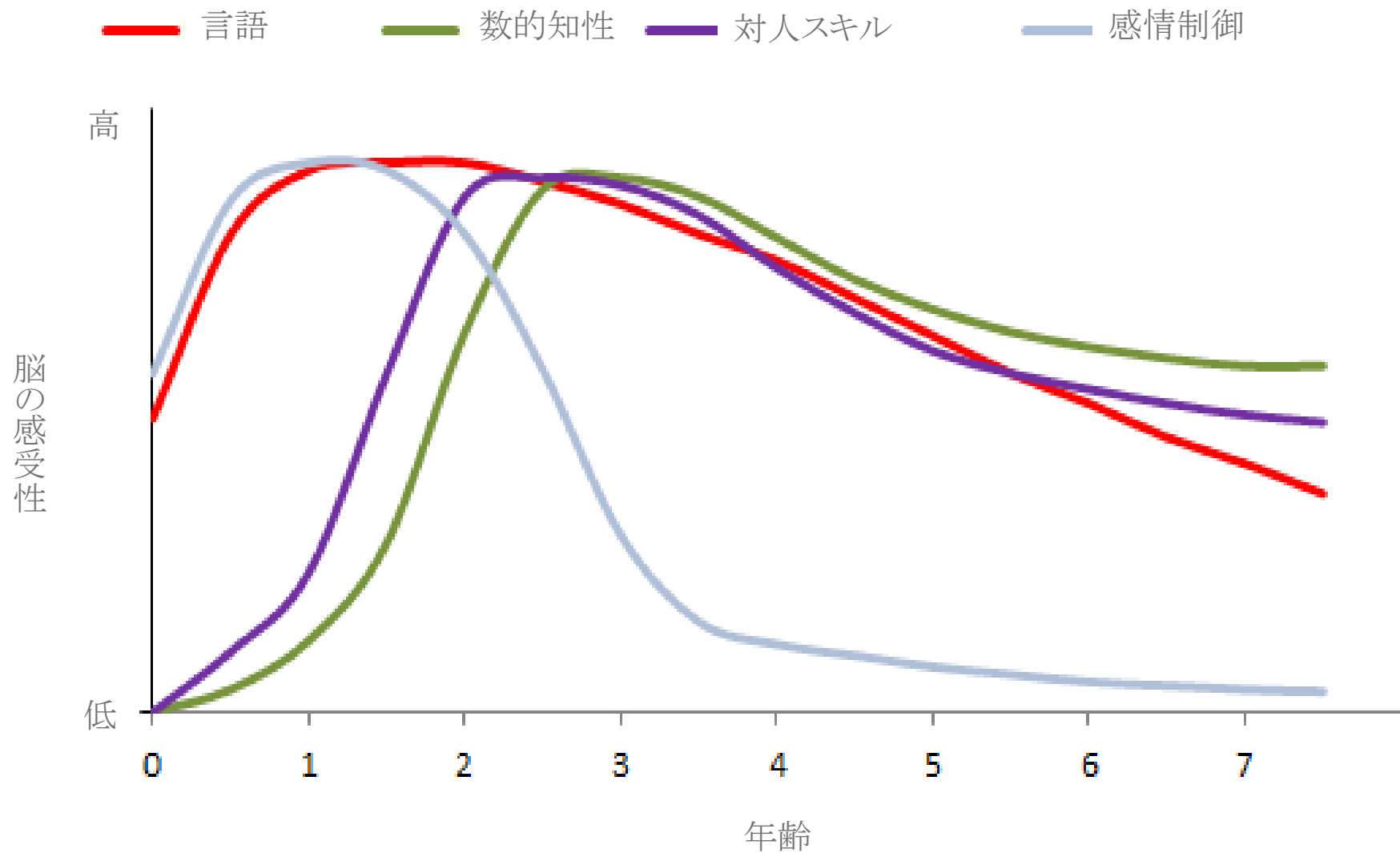


Today's focus

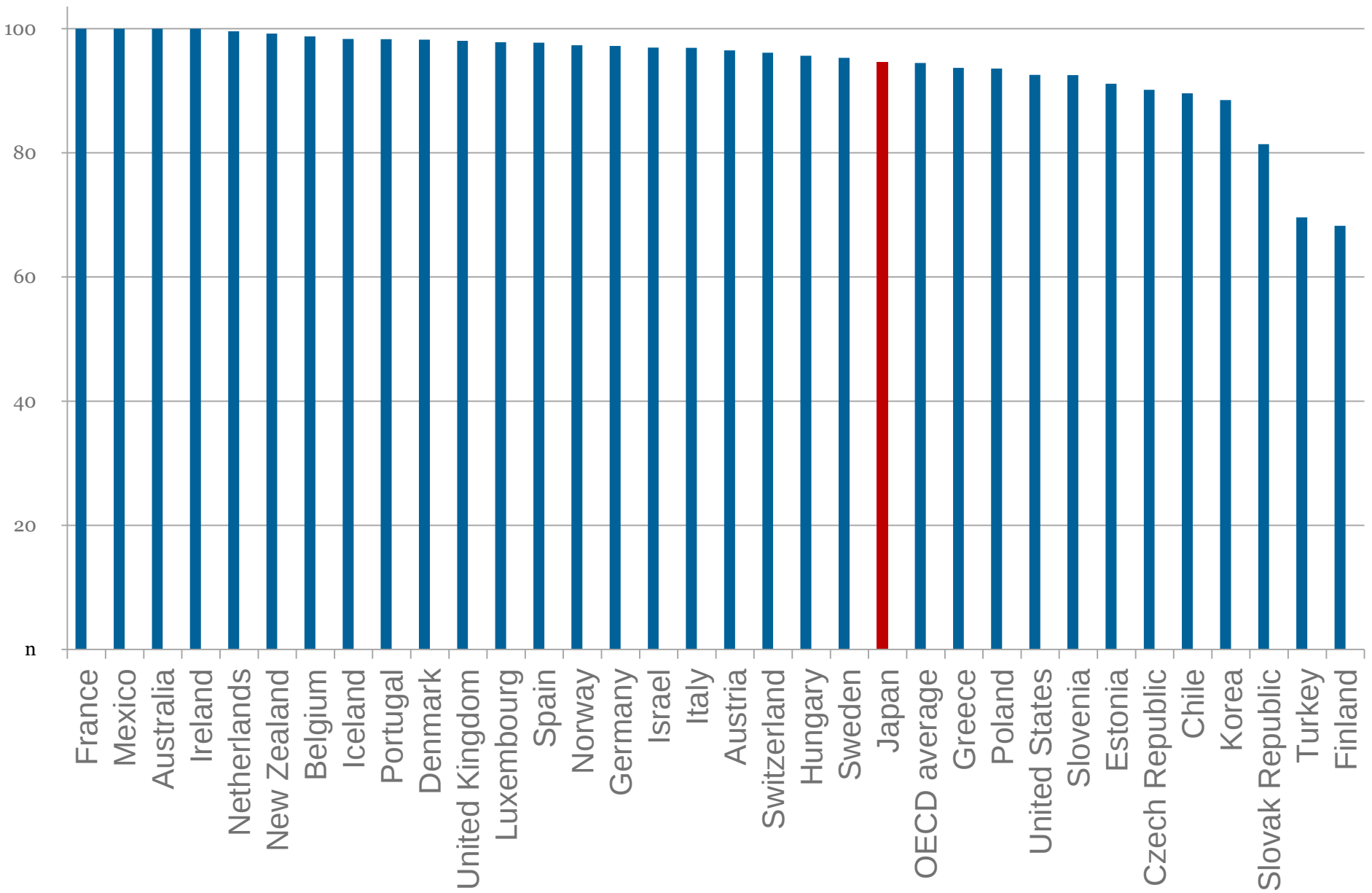
- 質のモニタリング調査に関する政策背景
- モニタリングに関する各国進捗状況と課題
- モニタリング：分野別考察
 - サービスの質
 - スタッフの質
 - 子どもの発達のモニタリング



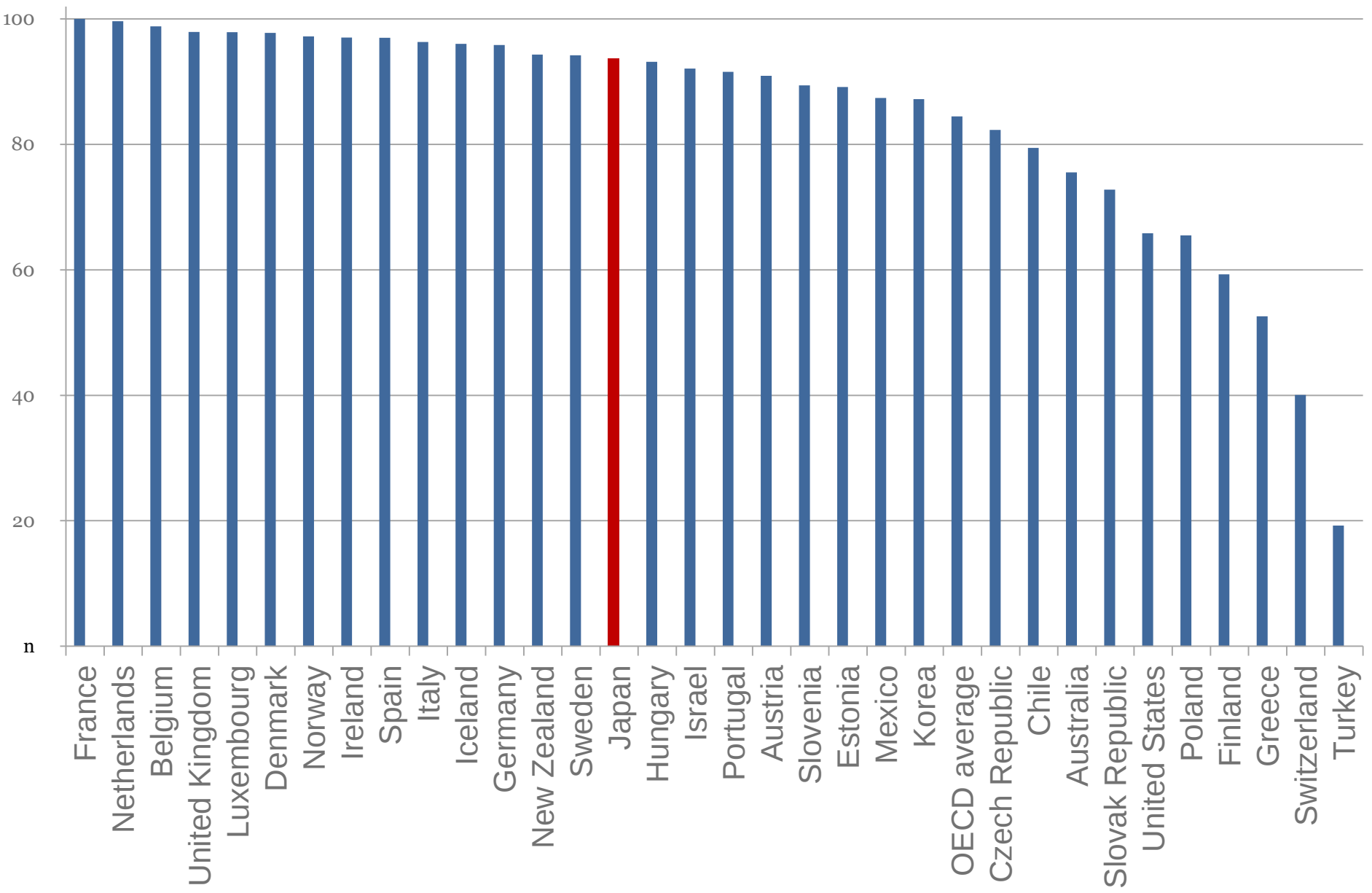
子どもの脳の感受性(年齢別)



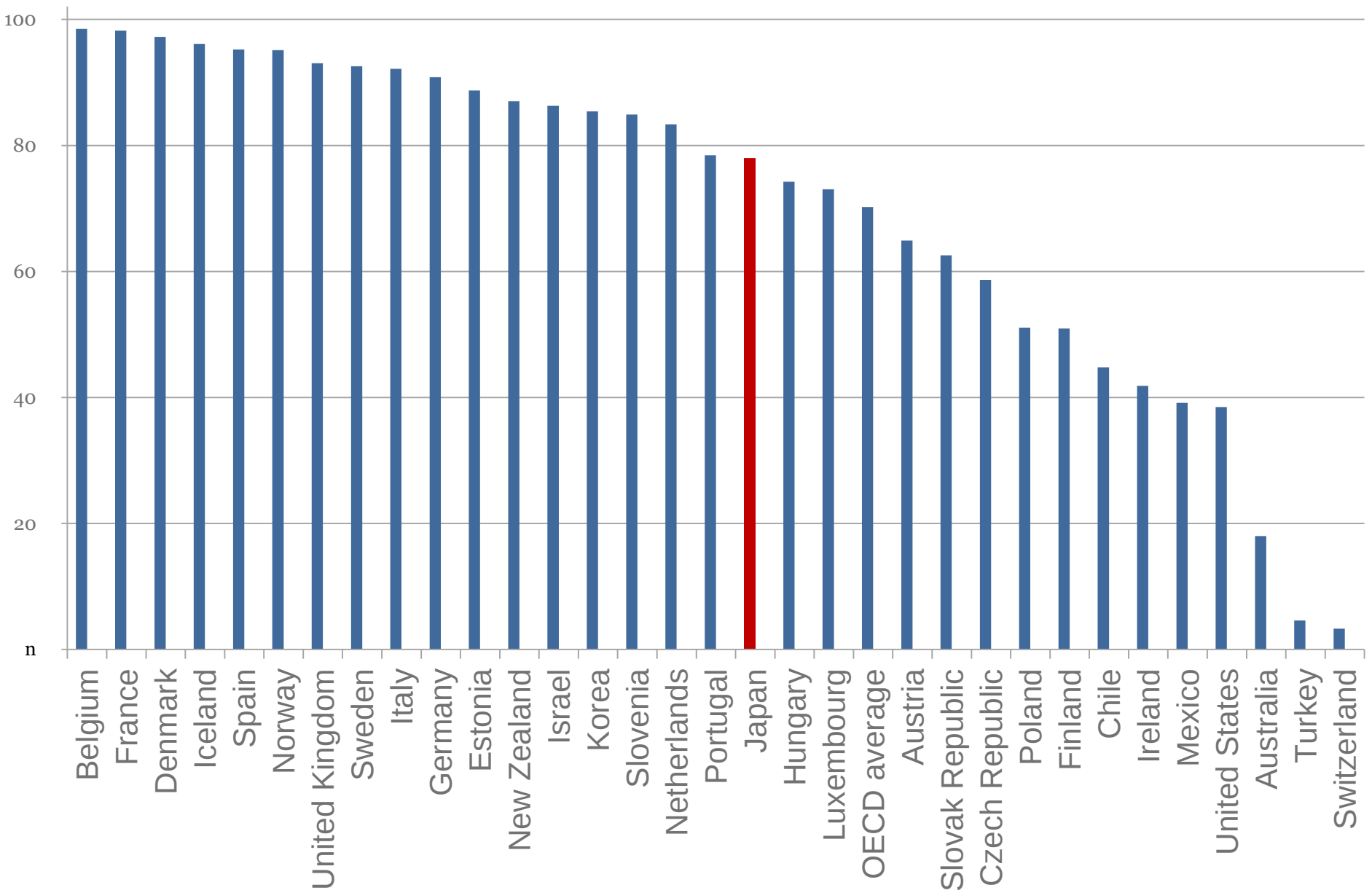
5歳児の（幼児教育・保育への）参加は多くのOECD加盟国で一般的になってきている



4歳児の（幼児教育・保育への）参加についても、 多くのOECD加盟国で一般的になってきている



3歳児の（幼児教育・保育への）参加も増加傾向にある





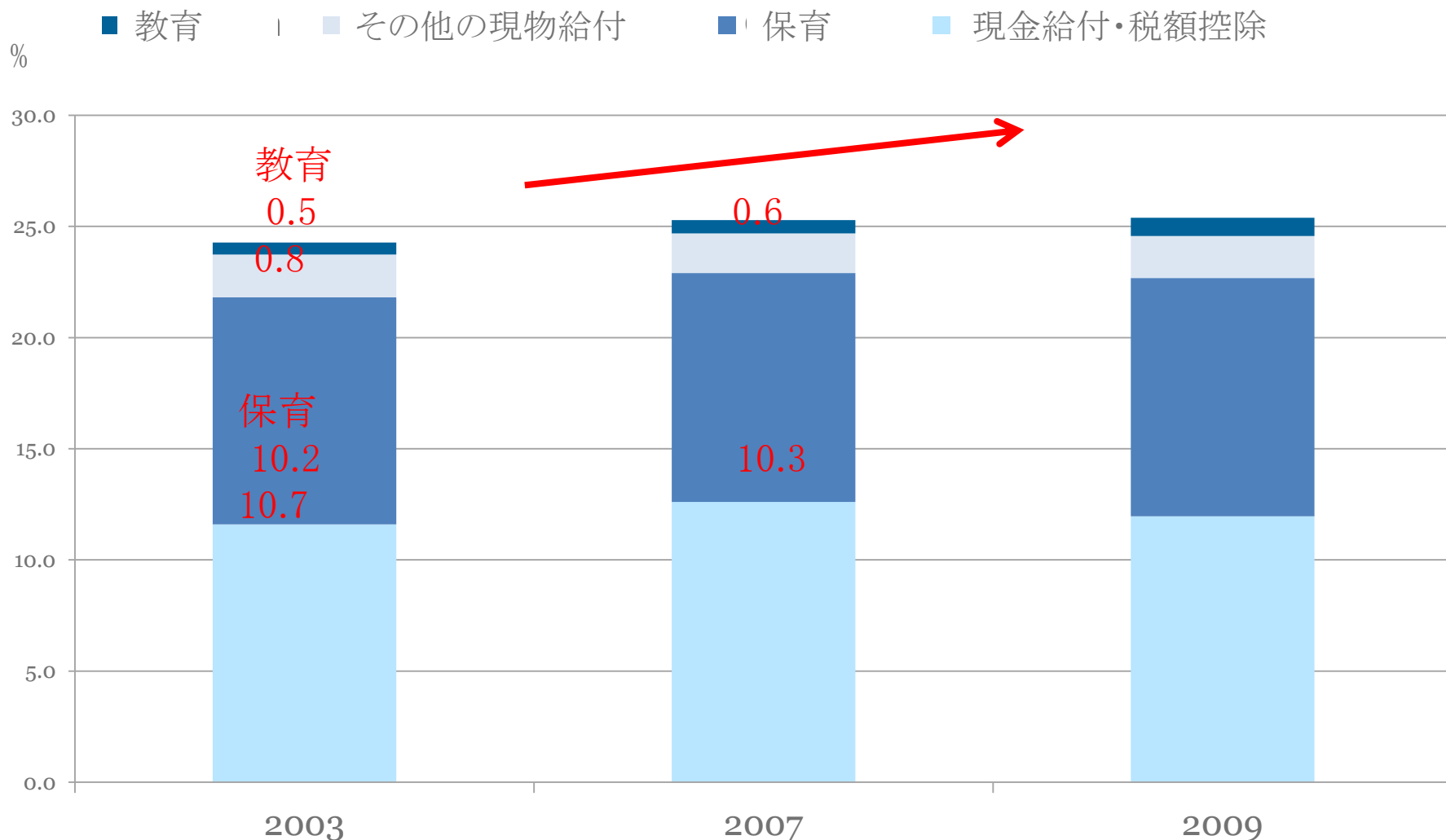
無償化や義務化などの法制度の整備

(但し、対象年齢、無償時間、条件など異なる)

Country	Compul- sory starting age	Age of children	Entitlement to a place in ECEC		Entitlement to free access	
			Legal access entitlement	Hours/week	Free access entitlement	Hours/week
Belgium-Flemish Community*	6	2.5-5	universal	23.33	unconditional	23.33
United Kingdom- Scotland*	5	3-4	universal	16	unconditional	12.5
Italy	6	3-5	universal	40	unconditional	40
Czech Republic*	6	5	universal	50	unconditional	≥40
Chile	6	0-2	targeted	55	conditional	55
		4-5	universal	22	unconditional	22
France	6	0-2	none	a	conditional	40
		2.5-5	universal	24	unconditional	24
Finland*	7	0-6	universal	50	conditional	50
		6	universal	20	unconditional	20
Mexico*	3	0-2	none	a	targeted	m
		3-5	universal	15-20	unconditional	15-20



0－5歳児に対する公的支出は、多くのOECD諸国で 少子化にもかかわらず、微増

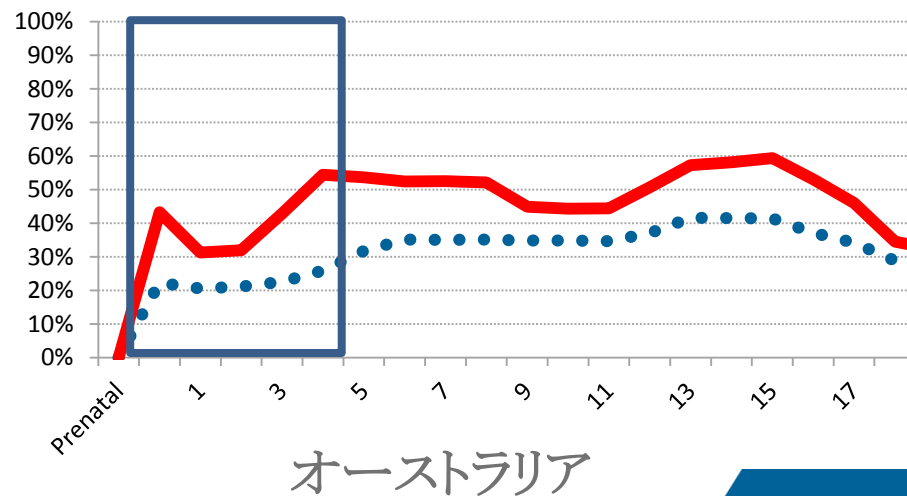
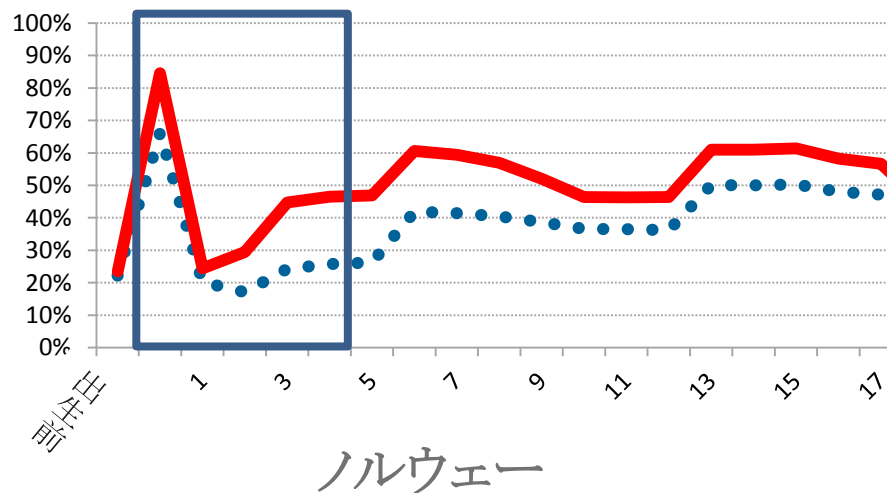
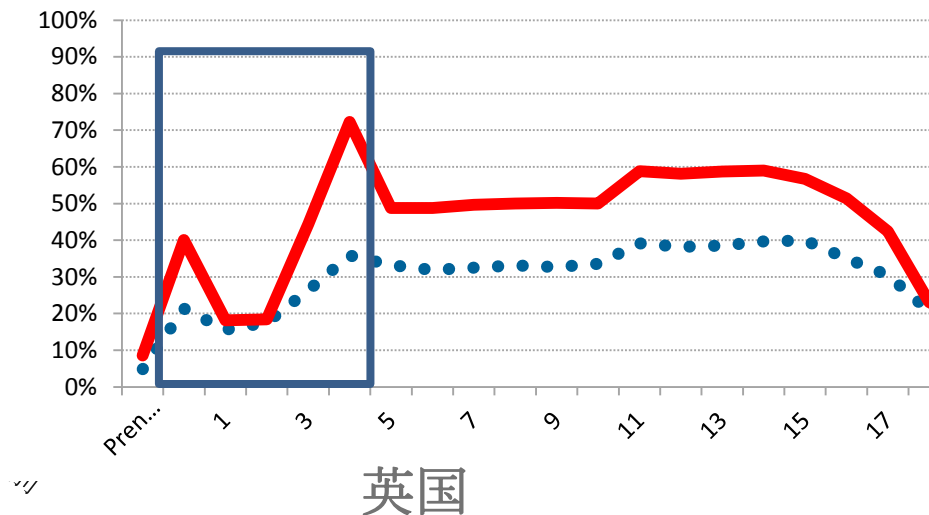
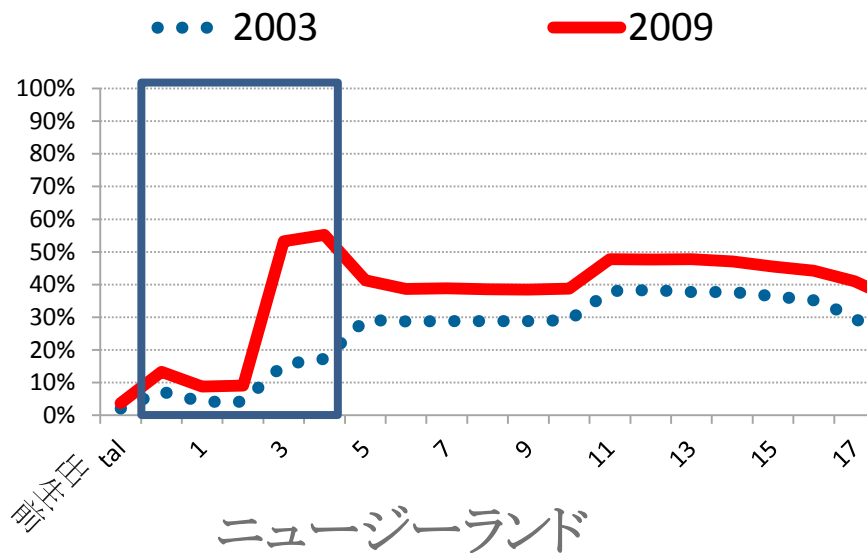




子どもへの公的投資 2003年及び2009年

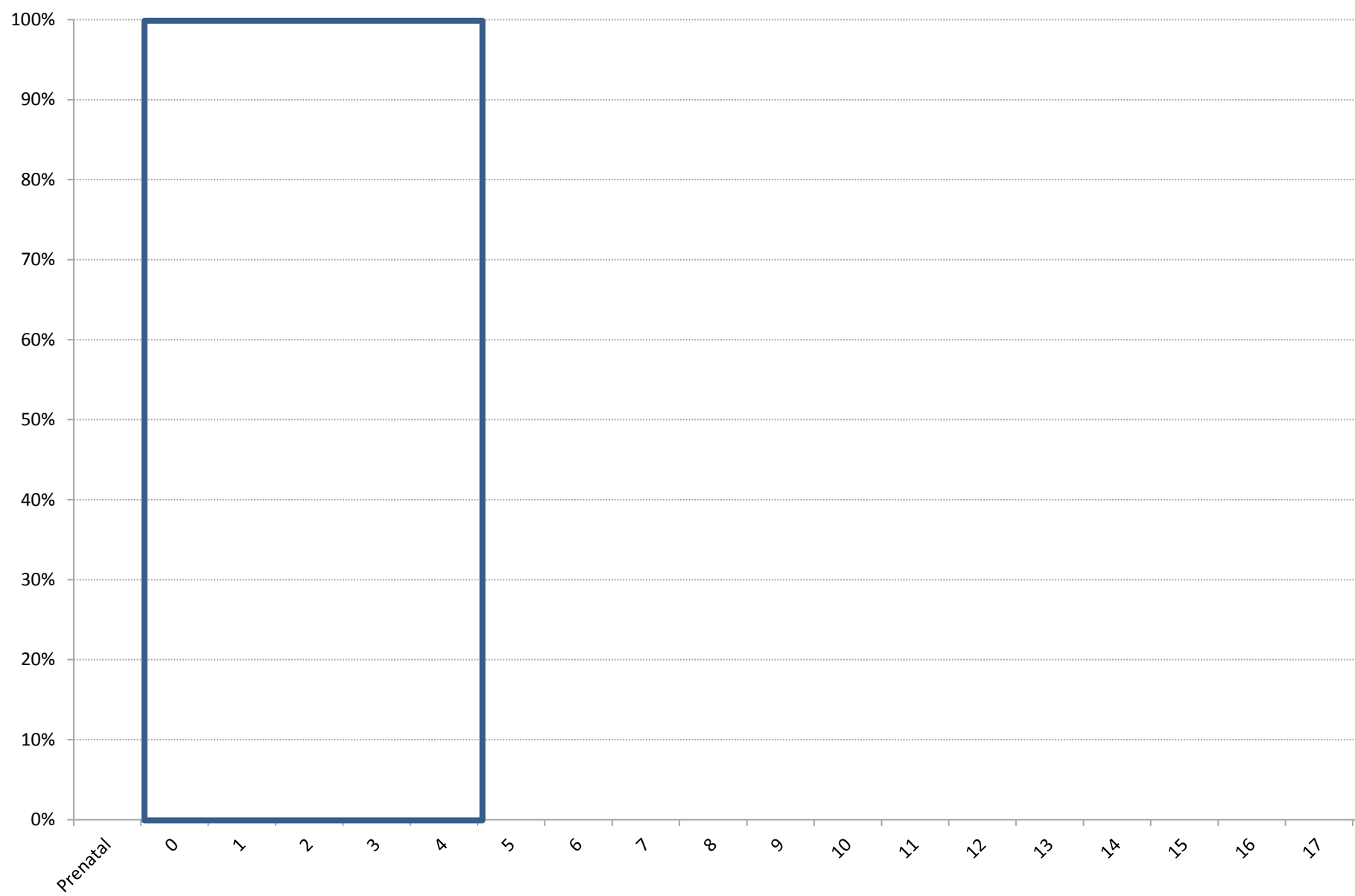
(公的支出を所得の中央値に対する%で換算)

* 保育・教育・現金支給・税控除・現物支給・その他含む



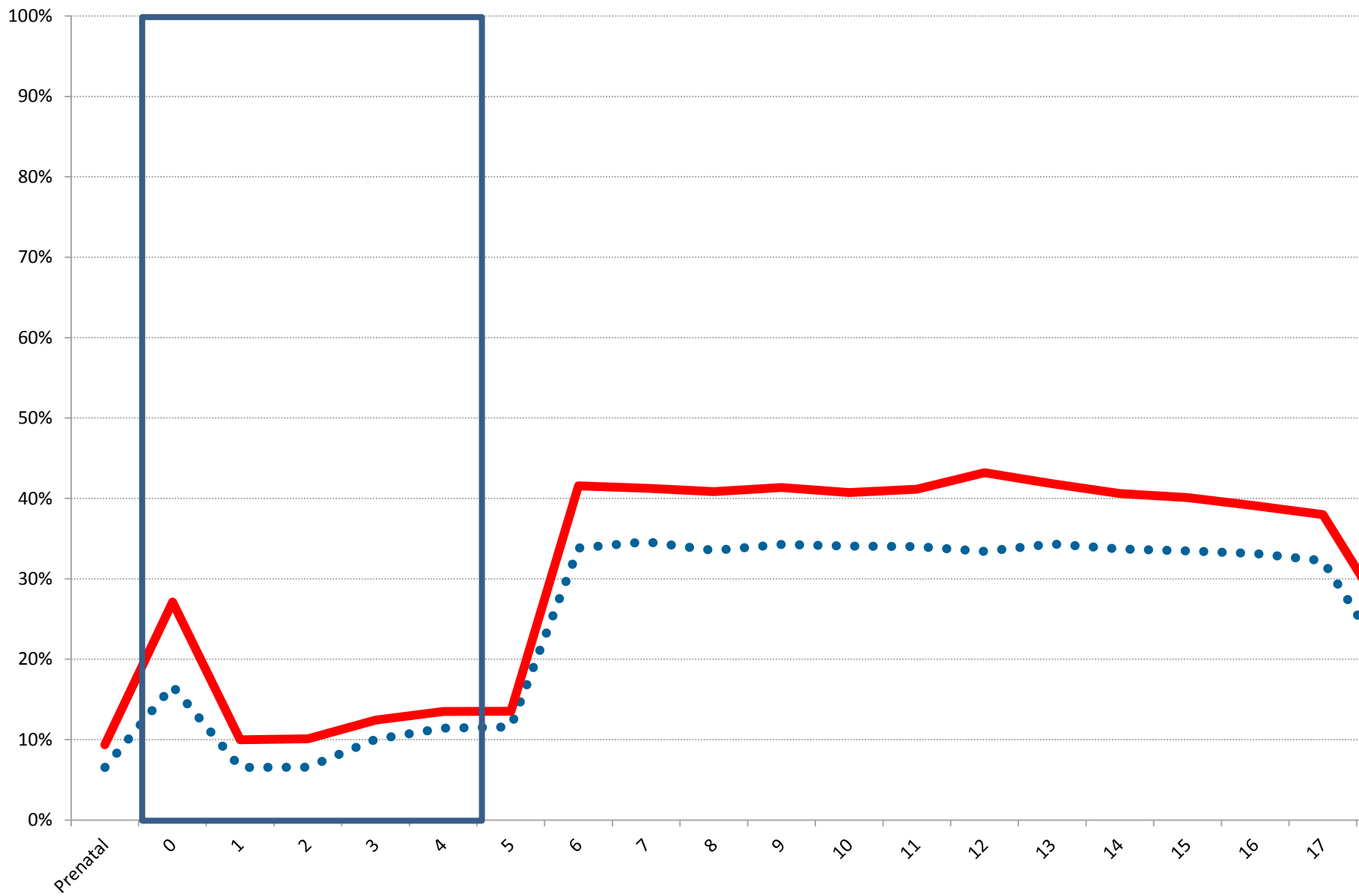
Reflection Time

日本 2003 2009



日本

2003 2009





回答国(24ヶ国・地域)の全てがモニタリングを実施・向上・拡充している主な理由 3つ

- より良い政策策定のため、公的支出増に伴うアカウンタビリティの必要性
- より良い子どもの成長を確保するため、制度・実践の良い点・改善点を明確にする質の向上
- 親が多種多様なサービスの中から適切な選択をするため、モニタリング結果の公開によりサービスの透明性を確保



Today's focus

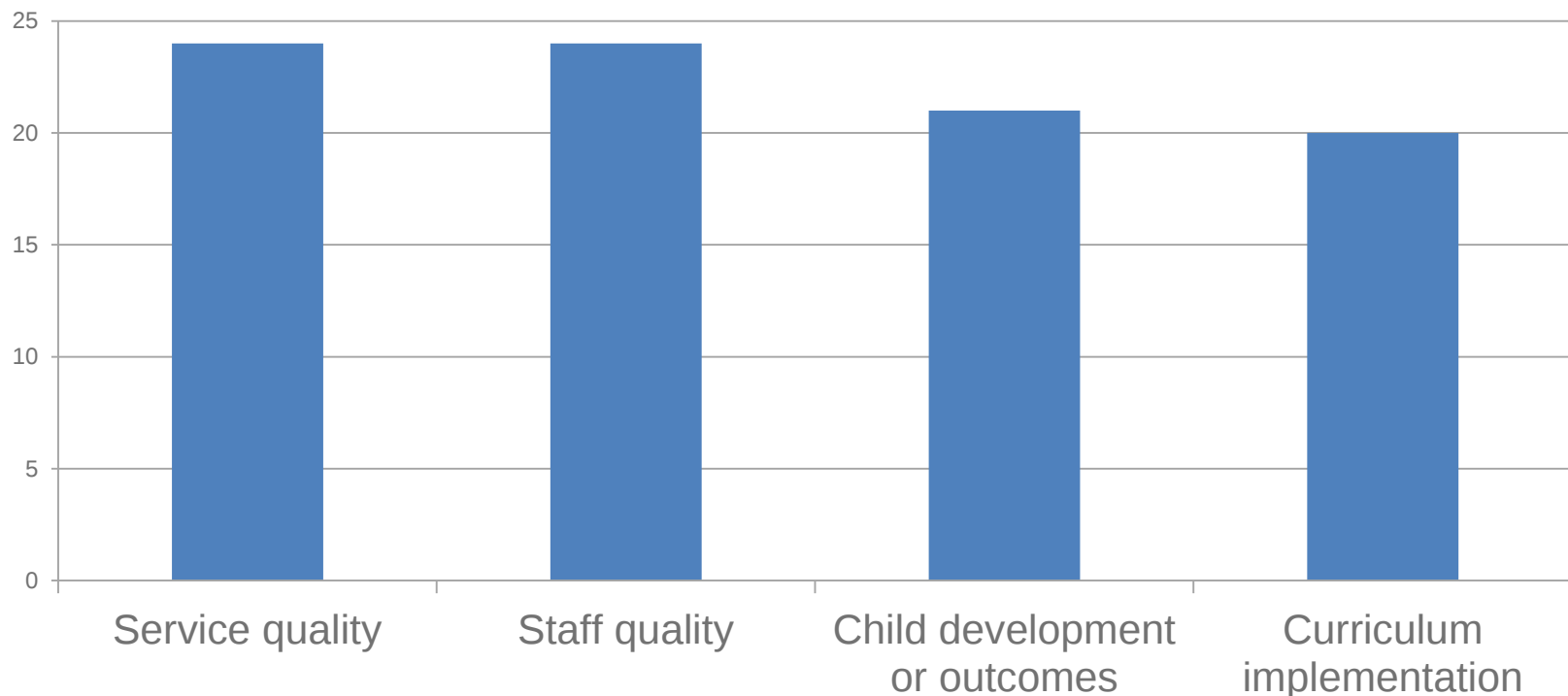
- 質のモニタリング調査に関する政策背景
- モニタリングに関する各国進捗状況と課題
- モニタリング：分野別考察
 - サービスの質
 - スタッフの質
 - 子どもの発達のモニタリング



質の「何(どの側面)」をモニタリングするのか？ What do countries monitor quality?

サービスの質とスタッフの質が最も一般的にモニタリングされている。子どもの成果はそこまで頻繁にモニタリングされていない。

モニタリングの分野はしばしば統合されている: サービスの質、スタッフの質、そして子どもの成果は通常個別にモニタリングされることはない。





モニタリングの進捗状況(1/2)

制度

- モニタリング制度への**財源は主に公的**なものであり、様々な行政レベルから支出されている。
- 質のモニタリングは主に教育省や監督局などの**公的機関**によって実施されている。
- 地方分権化された制度では**地方の行政局**がモニタリングにおいて主要な役割を果たす。
- 異なる形態の幼児教育・保育供給者が存在する国では、**共通の基準**がより適用されるようになってきている。(例:最低基準)



モニタリングの現在の進捗状況(2/2)

実施

- 構造的な側面/ 規則の遵守: もっとも頻繁にモニタリングが行われている。一方でプロセス・クオリティのモニタリングがより注目されるようになってきている。
- モニタリングに対するアプローチと手段については幅広い違いがある。
- 外部の評価者は通常、**包括的な訓練**を受けているが、内部の評価者は必ずしもモニタリングの全ての側面に関与するわけではない。
- 質のモニタリングの結果、特にサービスの質については、**結果のデータが公表**されるようになってきている。



質のモニタリングにおける課題

質の定義、構築:

- 明確で包括的な質の目標設定
- スタッフ間及びその他関係者間による質に関する共有の理解
- 親の視点・意見や子どもの視点・意見の導入

モニタリング制度における一貫性の確保:

- 国の**質基準・指標**の構築（「つぎはぎ制度」にしないため、政府と一般市民に対し情報を提供できるような形にモニタリング制度をデザイン）
- 異なる施設形態に対する**一貫したモニタリングの枠組み**を構築
- モニタリングの実施責任を、地方行政やその他に**権限委譲**することによる潜在的長所・短所について検討が必要
- モニタリング方法の**標準化**



モニタリング結果を制度・実践改革につなげる

- 政策や戦略に役立つデータを収集。但し、モニタリング実施にかかる実務(として)スタッフにかかる負担を過小評価しない
- 質の保証ができていない施設やスタッフの改善(トレーニング実施など)と、専門性の開発を連携させる
- より良い子どもの発達・発育のため継続的なモニタリングを実施



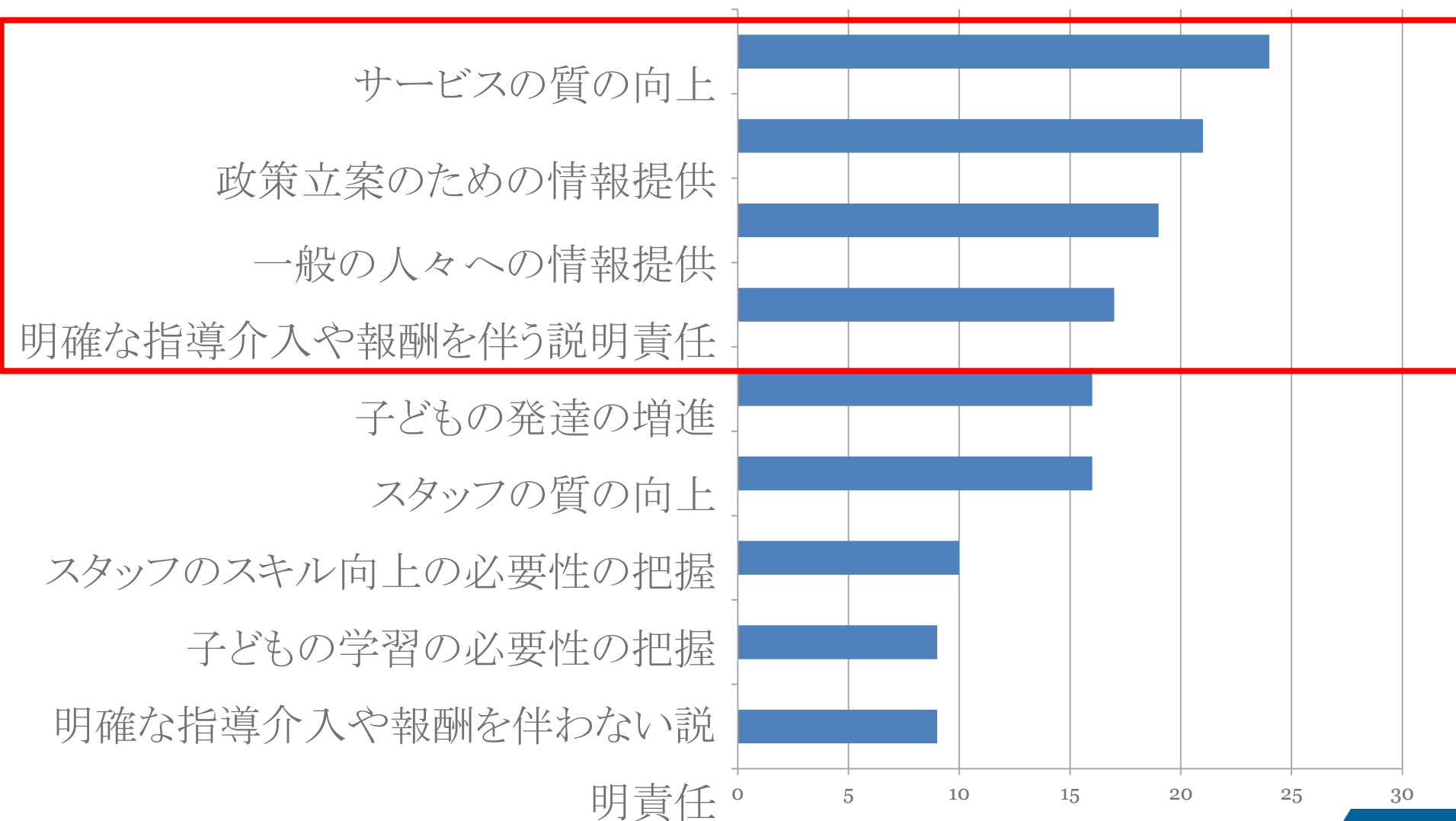
Today's focus

- 質のモニタリング調査に関する政策背景
- モニタリングに関する各国進捗状況と課題
- **モニタリング：分野別考察**
 - サービスの質
 - スタッフの質
 - 子どもの発達のモニタリング



サービスの質のモニタリング：目的

各国・地域が列挙した回数





サービスの質のモニタリング：実施

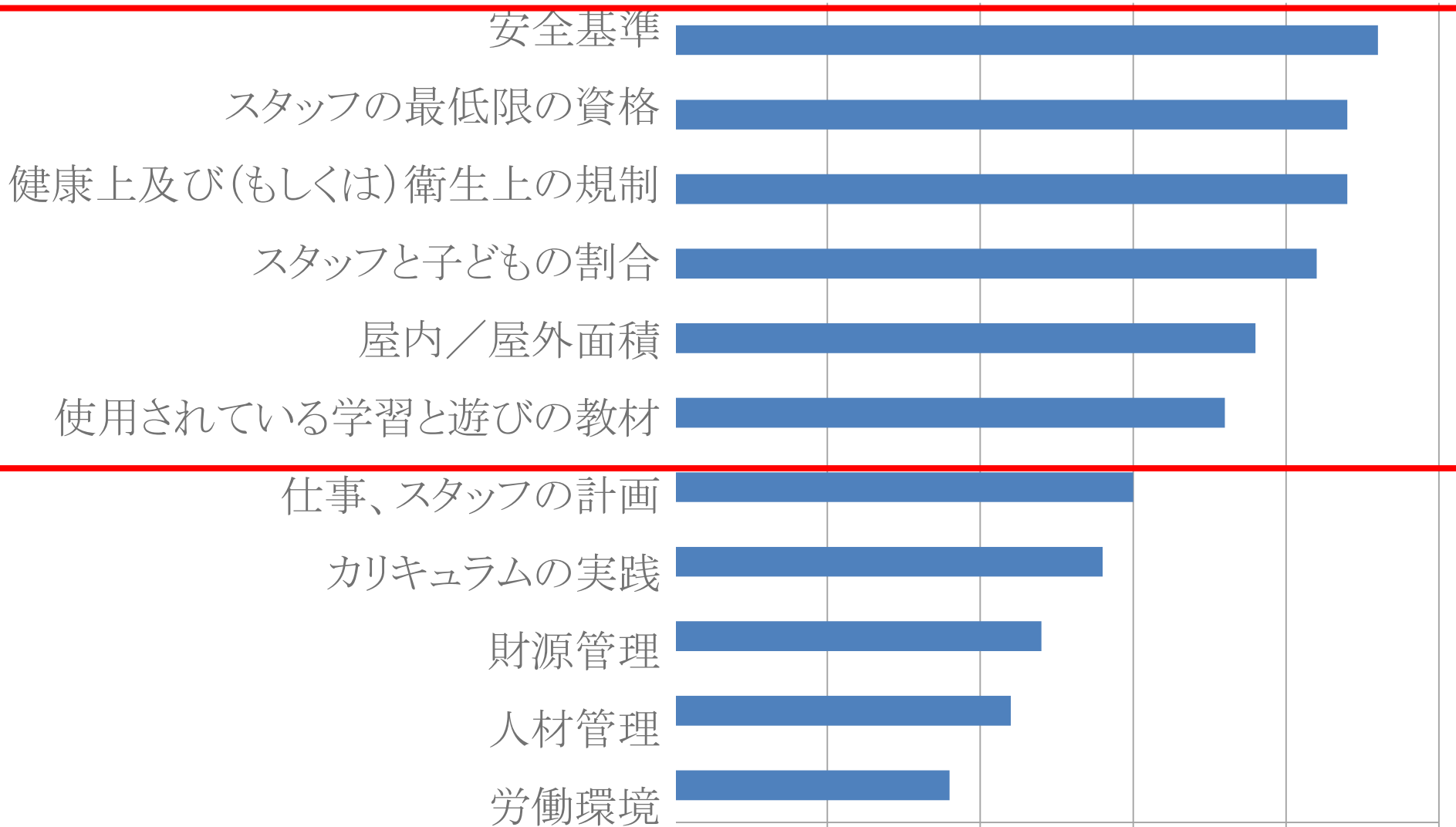
- ①視察・第三者評価 (24/24)と②自己評価 (19/24) が最も一般的な方法。③親への調査はそこまで一般的ではないが半数以上が実施(15/24)
- サービスの質の結果は、多くの国で公開されなければならない。但し、いくつかの国では個々の施設の結果ではなく、一般化されたもしくは総合的な結果のみが共有されている。



サービスの質のモニタリング:対象

①視察・第3者評価の場合

各国・地域が列挙した回数





サービスの質のモニタリング:対象

②自己評価の場合

- スタッフと親との間、管理職との、及び同僚との間の協力とコミュニケーション、改善点に焦点

③親への調査の場合

- 主に、サービスの質、部屋や建物の質、指導と保育の質、親の関与の可能性といった全体的な満足度と、親の観点からの子どもの発達、といった点を質問。



サービスの質のモニタリング：方法

①視察・第三者評価の場合

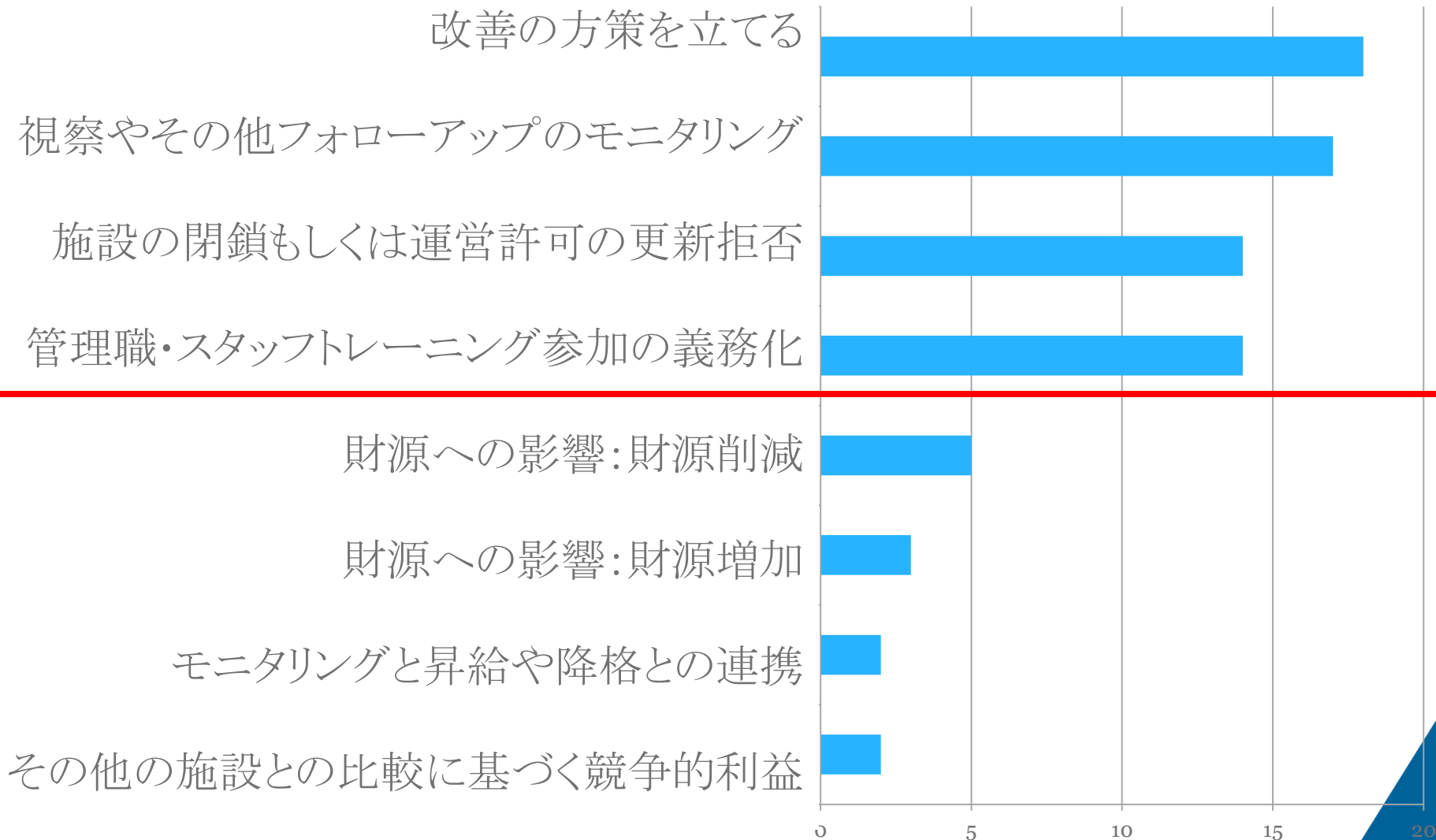
- 87.5%の国・地域において、主に、**観察、インタビュー、内部文書の分析**が行われている。
- 主に、**第三者チェックリストと自己評価の結果**はかなり頻繁に用いられている

②自己評価

- 自己改善目的のみならず、視察の評価対象の一部としても使用。
- 内省に基づくレポートや日誌、自己チェックリストがしばしば用いられている
- 半数弱がポートフォリオを用いている
- ビデオによる**考察**もあるが、あまり用いられていない



サービスの質のモニタリング:結果の利用法





Reflection Time

サービスの質のモニタリング：課題

(他国と比較) 日本において・・・

モニタリングされる側面の定義：

- 「サービスの質」について、スタッフ間、また、スタッフ以外の関係者(親など)と共有認識があるか？
- 共有認識を高めるための効果的な施策は何か？

モニタリングの手続きと実施方法の一貫性

- 第三者評価の妥当性・信頼性はあるか？ 評価者のトレーニングは？
- 外部評価と内部評価が連動しているか？



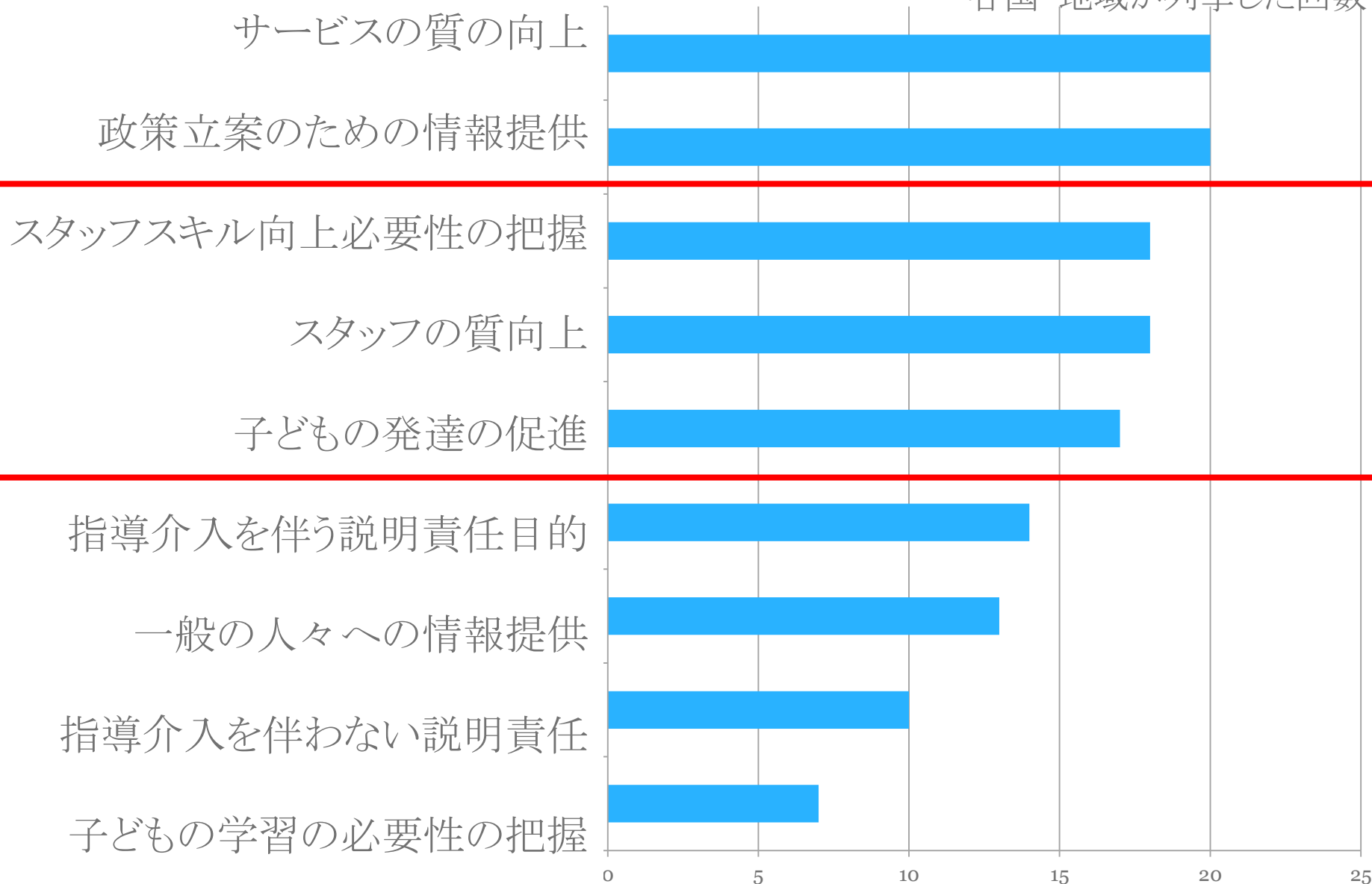
Today's focus

- 質のモニタリング調査に関する政策背景
- モニタリングに関する各国進捗状況と課題
- **モニタリング：分野別考察**
 - サービスの質
 - スタッフの質
 - 子どもの発達のモニタリング



スタッフの質のモニタリング：目的

各国・地域が列举した回数





スタッフの質のモニタリング：実施

- ①視察・第三者評価(22/24)と②自己評価 (20/24)が最も一般的。また、③親への調査 (13/24)も実施されているが、近年、④ピア・レビューが内部評価(10/24)でも外部評価(6/24)も、一般的に導入。スタッフに対するアセス (1/24)は稀。
- 全体的なスタッフの質に関する調査結果は一般に公表されている(14/19)。しかし、個々のスタッフの仕事ぶりへの評価については、**守秘義務**の観点から広範に公開されてはいない。
 - － 結果は**請求**に応じて公表(例、ノルウェー、カザフスタン、フランドル地方ベルギー)
 - － 結果は**内部にとどまる**(例、フランス、イタリア、メキシコ、ニュージーランドとスコットランド)



スタッフの質のモニタリング：対象

①視察・第三者評価の場合

- 主に、スタッフの資格、保育と指導の質、カリキュラムの実施 が焦点。時間管理、教材の使用及びプロセス・クオリティーもしばしばモニタリング対象。50%の国・地域で、子どもの発達の成果も考慮。
- 最もモニタリングされていないのは、マネージメントとリーダーシップ、スタッフと親のコミュニケーション、スタッフのカリキュラム内容理解度。

②自己評価

- 多くの場合、スタッフ間のコミュニケーション、スタッフと親のコミュニケーション、教材の活用、カリキュラムの実施、マネージメントとリーダーシップスキルが焦点。
- 子どもの発達度に基づく自己評価を行うことは極めて稀。



スタッフの質のモニタリング：対象

③親への調査

- 75%の国・地域で、スタッフの質、カリキュラム、スタッフとのコミュニケーションの質に関し質問

④(内部及び外部の)ピア・レビュー

- 90%の国・地域では、スタッフの実務及びカリキュラムの実践、チームワークとコミュニケーション及びプロセス・クオリティーなど全体的な質が対象
- 組織的に活動し、施設を円滑に運営するために重要であるにもかかわらず、リーダーシップやマネージメントは最も調査される頻度が低い。
- スタッフのカリキュラム内容に関する知識と専門性開発のための機会についても留意している。

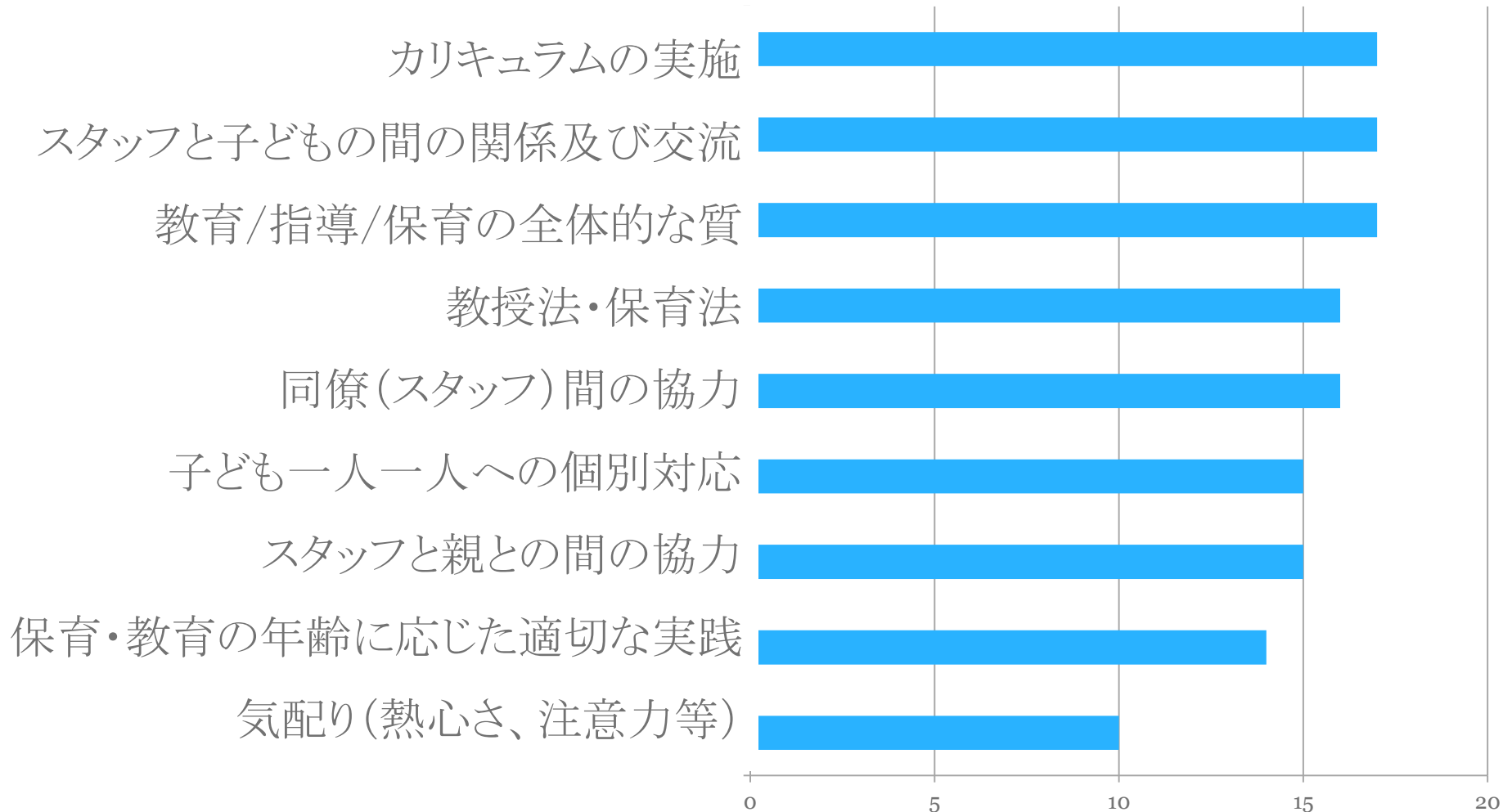


Reflection Time

プロセス・クオリティーとは？



プロセス・クオリティの側面





スタッフの質のモニタリング：方法

①視察・第3者評価

- サービスの質モニタリング同様、インタビュー、観察、及び内部文書の分析が最も頻繁に実施。
- 自己評価がしばしば視察の前に実施、この結果も考慮に入れられる。

②自己評価：

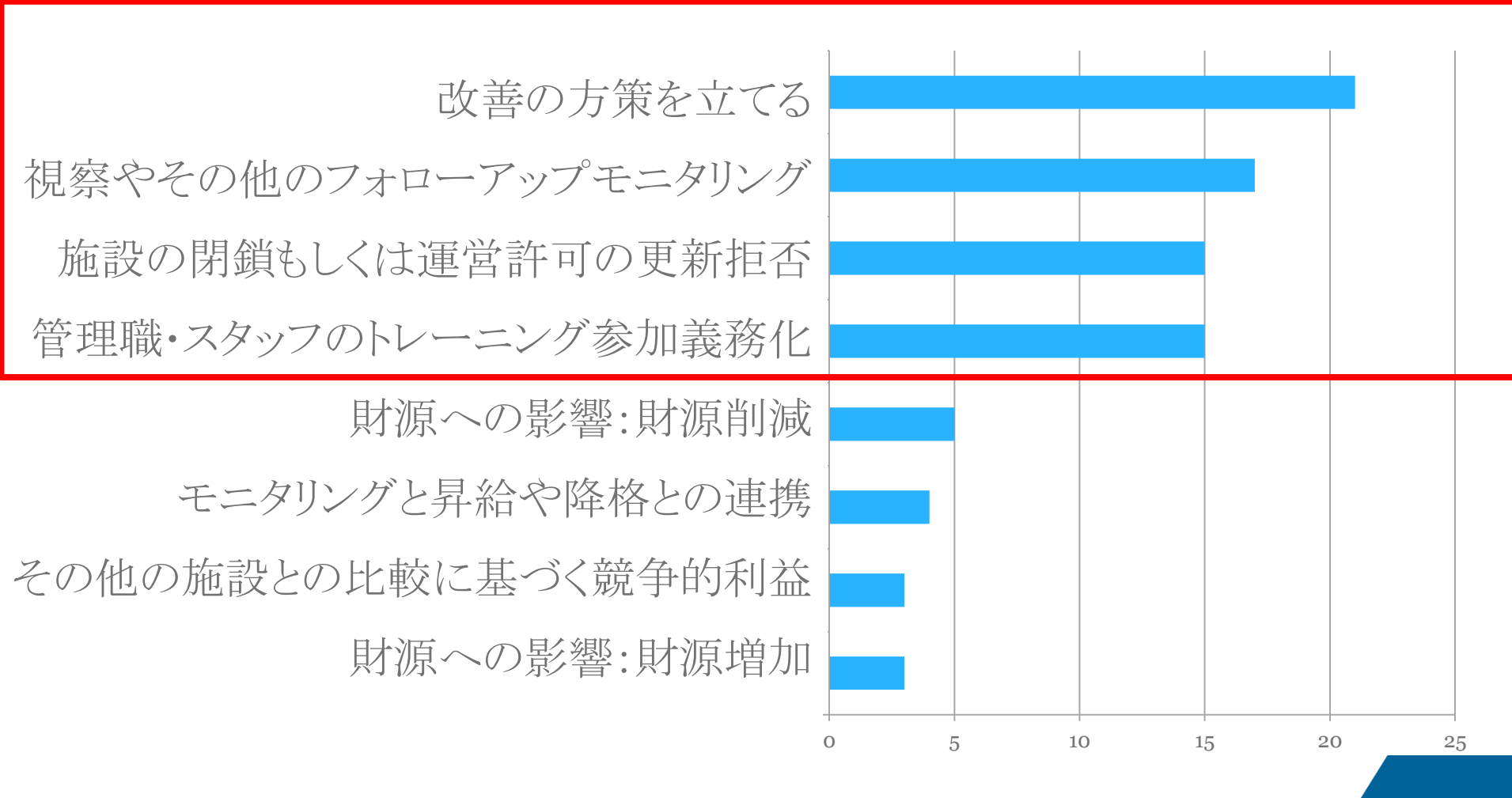
- 評価方法は、施設間で大きく異なる。半分の地域では、内省に基づくレポートや日誌、自己報告による調査が主。少数の国の中では、ビデオによる自己評価とフィードバックを行っているケースあり。但し、幅広く行われているものではない。

④ピア・レビュー：

- 観察(スタッフの実務と保育・幼児教育アプローチ)、インタビュー、管理職及びスタッフによって行われた調査の結果、及びポートフォリオのレビューが、最も頻繁に実施。ビデオによるフィードバックは稀。行っている地域でも、一般的に行われている訳ではない。



スタッフの質のモニタリング:結果





Reflection Time

スタッフの質のモニタリング：課題

(他国と比較) 日本において・・・

スタッフの質のモニタリングが改善につながることを保証する:

- スタッフ自身が、実践の質向上を目指すには、どのようなインセンティブが効果的か？
- 他国では、質が不十分とみなされた施設やスタッフの改善のため、スタッフのトレーニングにつなげる努力がみられるが、日本においてトレーニングのコスト(費用・時間)は、どのように支援されるのが効果的か？

カリキュラムの実施をモニターする:

- カリキュラムが意図された通りに実施されているか否かのモニタリングは、日本においては、どの手法が効果的か？

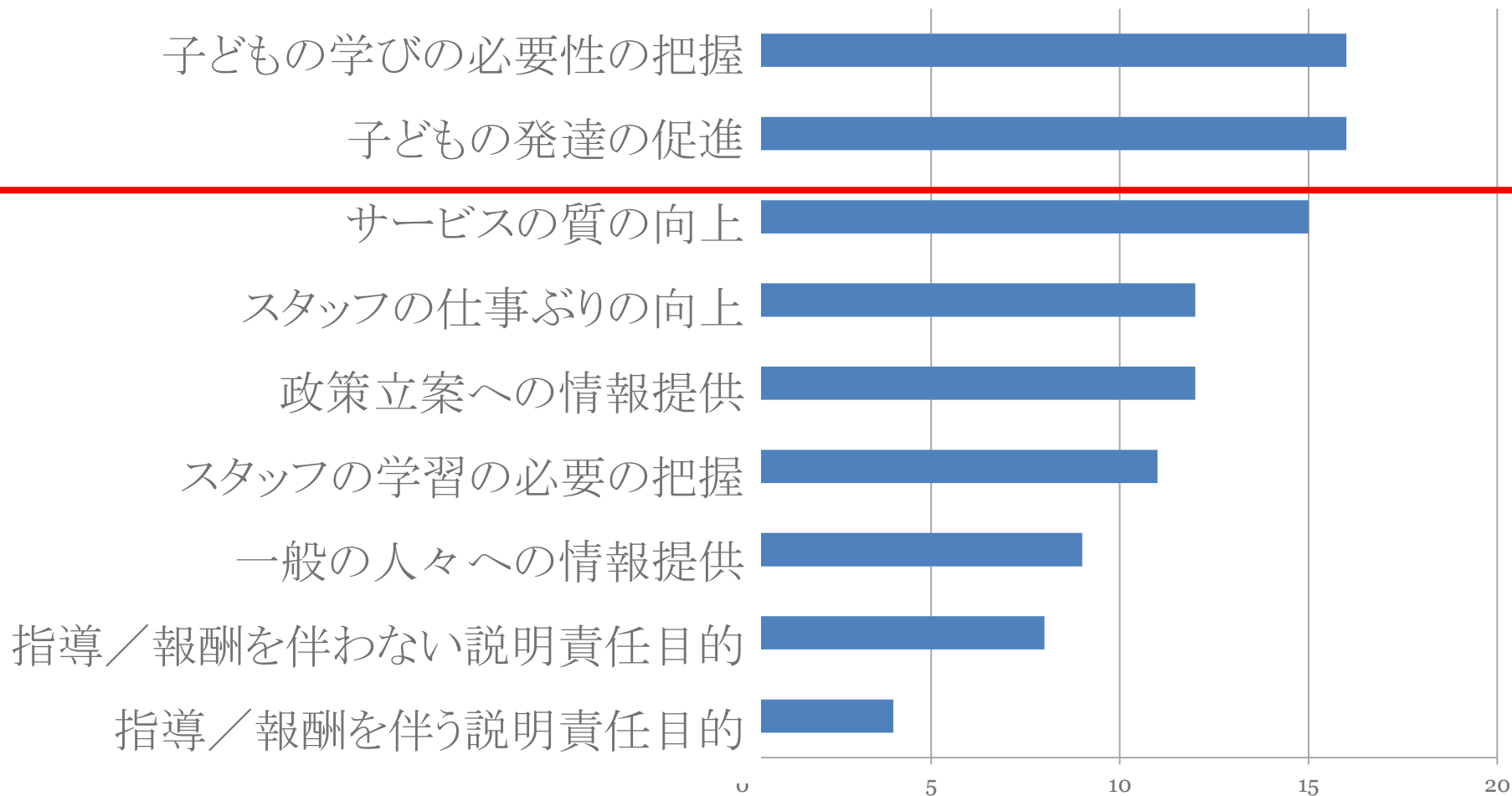


Today's focus

- 質のモニタリング調査に関する政策背景
- モニタリングに関する各国進捗状況と課題
- **モニタリング：分野別考察**
 - サービスの質
 - スタッフの質
 - 子どもの発達のモニタリング



子どもの発達モニタリング: 目的





子どもの発達モニタリング：実施

- **観察**が最も一般的に用いられている方法（18/21）
- 21カ国・地域中、
 - 15カ国・地域で子どもの談話や物語から**ナラティブ評価**を活用。
 - 12カ国・地域で**直接評価**実施。但し、通常、必須ではなく、また国レベルでも行われていない。
- 頻度を法律で規制していることは滅多にないが、**継続的なモニタリング**を強く推奨。通常、少なくとも年に一回。子どもの発達モニタリングが**形成的目的**であるため。
- 14カ国・地域で**子どもの記録**を小学校と共有。これは義務ではないが、むしろ慣行。



子どもの発達のマニタリング:方法

観察

- チェックリスト (17/21)や評価尺度(12/21) が最も一般的
- 狭義の目的(視察、ピア・レビュー)を意図することもあれば、
広義の目的(親向けに子どもの進歩を記録・報告)の場合もある。
- 子どもに対するプレッシャーや影響はほとんどない。
- 子どもの発達を測る際に、**子どもの視点・考えをモニタリング**することがより広く実践されるようになってきた (11/21)。



子どもの発達のマニタリング：方法

ナラティブ評価

- 物語を話すこと (11/21)やポートフォリオ (14/21)からなる。
- 専門家のみならず子どもの側の作業も必要とし、また親からのインプットの含みうるため、子どもの発達をより包括的に評価できるアプローチ。
- 毎日の活動に統合することが出来、スタッフにとっては手間がかかるが、子どもにはあまり影響しない。
- 観察に基づく結果も含むことが出来る。

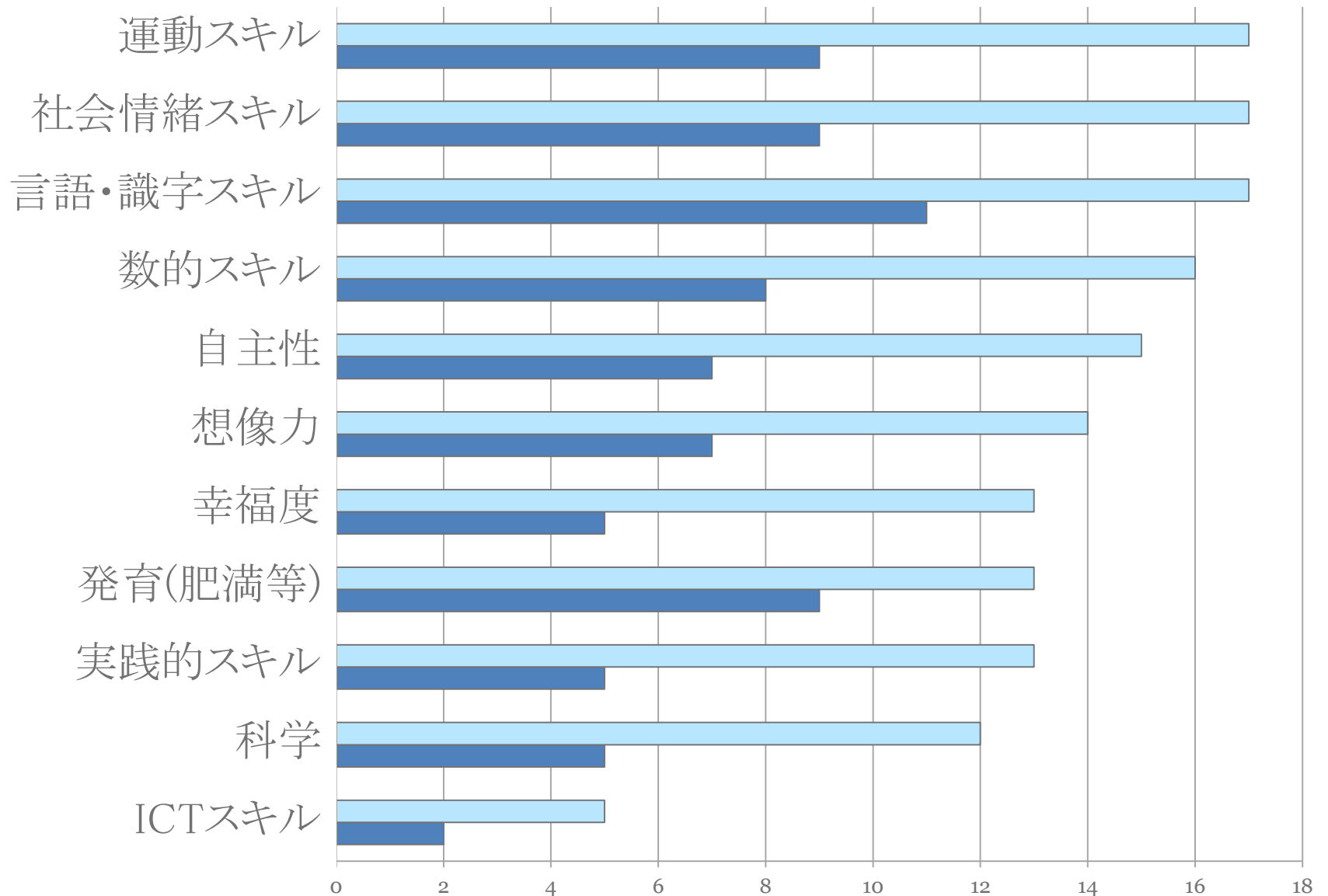


子どもの発達のマニタリング:方法

直接評価

- テスト (9/21)やスクリーニング (9/21)によって行われている。
 - テストは正式な評価。紙面もしくはコンピューター上で行われ、子どもの知識、スキル、態度・行動を測ることを目的としている。通常、園のスタッフ又は外部機関(言語の専門家、心理学者、医療従事者等)によって行われる。
 - スクリーニングは標準的な子どもの発達における問題や遅れを把握することを目的。通常、基礎的なスキルの習得を測る短いテストが行われ、また、専門家が子どもや親に対して行う質問や、遊びを通じて得られた情報なども含まれることがある

■ 観察とナラティブ評価
■ 直接評価





Reflection Time

子どもの発達のマニタリング:課題

(他国と比較) 日本において...

子どもの発達を正確かつ包括的に把握すること:

- 他国では、複数の手段を用いる必然性を認識しているが、日本において、個々の子どもの発達を認識するためには、どのような方法が適切であると認識されているか？
- 子どもの発達を継続的にマニタリングすることは、スタッフにとって、過度な負担にならないか？